

令和6年度国立研究開発法人森林研究・整備機構入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	令和7年2月12日（水）森林総合研究所特別会議室	
委員	清水侯二（一般財団法人建築保全センター参事）、鈴木一美（元会計検査院第3局環境検査課長）、二井矢句子（弁護士）	
審議対象期間	令和6年1月1日～ 令和6年12月31日	
対象案件	総件数：35件（抽出案件：10件）	
	工 事（抽出案件）	測量・建設コンサルタント（抽出案件）
一般競争入札	17件（4件）	13件（3件）
不落随意契約	2件（2件）	2件（1件）
随意契約	0件（0件）	1件（0件）
（議事） （1）委員長選出 （2）令和6年度審議案件の説明及び審議 （3）まとめ		
議事	委員からの主な意見・質問	森林研究・整備機構の回答
(1)委員長選出	（委員の互選により清水委員を委員長に選出）	
(2)令和6年度審議案件の説明及び審議	森林総合研究所北海道支所受水槽室内揚水ポンプ更新及び研究本館内配水ルート変更工事 ・予定価格は積み上げによる金額と参考見積書を比較の上、安価となる参考見積書の金額を採用しているとのことであるが、参考見積書徴取先を一者のみとした理由いかん。	・参考見積書は工事ができそうな出入り業者から徴取したものであるが、出入りの水道工事業者は少なく、結果として徴取できたのが一者のみであったことから、今後は可能な限り複数者から取り寄せるようにしていきたい。
	多摩森林科学園森の科学館外壁等改修工事 ・外壁改修等の内容で細かい工事と思われるが、12月半ばから3月ではかなり厳しいと思われる。そのような工期設定とした理由いかん。	・設計業務が不落による再公告となったこと、かつ工事入札も応札者がなく再公告となったことから、多くの期間を費やしたため、やむを得ない工期設定となった。今後は、建設業法の改正に則した適正な工期が確保されるよう可能な限り予算要求の段階から2年間の期間設定を計画するなど、余裕を持った工期設定が可能となるよう検討してまいりたい。

	多摩森林科学園森の科学館 外壁等改修工事設計業務 ・当初公告の入札で不落となり、再公告の入札でも不落となったことから、不落随契を行っているが、再公告の入札結果で予定価格との差に大幅な開きがあったにもかかわらず不落随契協議を行っている。当初公告の入札結果で不落随契協議を行わなかった理由いかな。	・当初公告時は、予定価格との差に大幅な開きがあったこと、一社のみ郵便入札であったこと、及び期間に余裕があったことから競争性の確保を重視して不落とし、再公告を行ったものである。再公告の入札結果でも依然として予定価格との差に大幅な開きはあったものの、当初公告時と比べて差が縮まったことや全体の工期を考慮すると厳しいスケジュールとなるため、不落随契協議を行う必要があった。
	原種増産施設整備工事のうち 新設受変電設備工事 ・入札執行後に辞退の申し入れのあった業者への指名停止措置を行ったことについて、そのような措置を行うことについて事前に参加者へ明示されていたか。	・入札に当たっての関係資料には一定の措置を行う趣旨の記載があるものの、明示されていたとはいえずらいと考えられることから、今後入札参加者へ措置の基準が伝わるように対応してまいりたい。
	原種増産施設整備工事 ・2億円を超えるこれだけの規模の工事で公告期間が19日間は厳しいと思われる。公告期間が長ければ多くの参加者が見込めるがそのような公告期間とした理由いかな。	・試験園の立木を伐倒・除根し施設敷を造成する過程で、地質調査に遅れが生じ、設計業務が予定より長引いた経緯があった。少しでも長い工期を確保するために、やむを得ず、規程上の最短に近い公告期間としたものであったが、前年度に設計を実施するなど、今後は可能な限り予算要求時点から考慮の上対応できるよう検討してまいりたい。
(3) まとめ	・審議の結果、抽出案件については改善点の指摘は特にない。	・本日御意見をいただいた内容を今後の業務に反映させるようにしてまいりたい。